

2021 年度第 1 四半期 決算報告

説明要旨

2021 年 7月30日

【説明会資料】

<https://www.zeon.co.jp/ir/financial/bs/pdf/210730.pdf>

【説明内容】 (取締役執行役員 松浦 一慶)

p. 2 2021 年度 Q1 (第 1 四半期) 総括とセグメントの概況

エラストマー素材・高機能材料ともに総じて堅調に推移した結果、Q1 の業績は前年同期および前期と比較して増収増益となった。なお、売上高、営業利益については、四半期決算において過去最高益を記録した。新型コロナウイルスによる調達および生産への影響はなかった。

エラストマー素材は、需要は堅調だが、輸出コンテナ不足により出荷の一部に遅れが発生し、主原料価格の上昇および海上運賃の大幅上昇により、営業利益は前期を下回った。

高機能材料は、電池材料、光学フィルムをはじめとして需要は堅調。電池材料の出荷増、光学フィルム関連の試作費用未発生等 (1Q に予定していた試作が 2Q 以降にずれしたこと) により、営業利益は前期を上回った。

p. 3 2021 年度 Q1 の事業環境 (為替・主原料推移)

為替は、US ドル、ユーロともに円安基調。

当社の主原料である国産ナフサ、アジアブタジエンが上昇を続けており、本日の日経新聞にも国産ナフサについての記載があったが、前期と比較し 20%程度ナフサが上昇している状況である。

p. 5 2021 年度 Q1 業績サマリー (全体)

売上高 872 億円、対前年同期 177 億円の増加、対前期 15 億円増収

営業利益 139 億円、対前年同期 96 億円の増益、対前期 15 億円増益

経常利益 148 億円、対前年同期 98 億円の増益、当期純利益 101 億円、対前年同期 65 億円増益

以上の結果となった。

p. 6 2021 年度 Q1 業績サマリー (セグメント別)

売上高は、エラストマー素材 487 億円で、対前年同期、対前期ともに増加。高機能材料 252 億円で対前年同期 28 億円の増収、ほぼ前期並の売上高の結果。

営業利益は、エラストマー素材 61 億円で、コロナの影響で自動車産業を中心にかなり厳しい状況であった前年同期と比べると 62 億円の増益だが、対前期では 9 億円の減益。高機能材料 78 億円で対前年同期、対前期ともに増加した。

p. 8 エラストマー素材 概況

ここから 3 枚はエラストマー素材についてご報告する。

左は国産ナフサ価格とエラストマー素材の売上高の推移をお示ししたもの、右は 20 年度 Q1 の合成ゴム出荷量を 100 とした場合の四半期毎の指数を棒グラフでお示ししている。21 年度 Q1 の出荷量は前年同期と比較した指数ベースで 135。前期比で若干落ちている分が輸出コンテナの不足で一部出荷できなかった

分とお考えいただきたい。

p. 9 エラストマー素材 P/L

出荷量について、前ページ同様に 20 年度 1Q を 100 とした指数をお示している。QoQ 増減率で合成ゴムと化成品が落ちているのは、海上コンテナ不足の影響。一方で、ラテックスは需要が堅調に推移し、数量は増えた。

これを受け、売上高は対前年同期、対前期で増加。営業利益は対前年同期で 62 億円の増加となっているが、前期比で 9 億円の減少した理由については、次ページでご説明する。

p. 10 エラストマー素材 営業利益差異 (QoQ)

価格差は 26 億円良化したが、原価差は 34 億円悪化した。ナフサ、ブタジエンともに急激に原料価格が上昇しており、この原料価格上昇分を同一期内ですべて吸収することができなかった。26 億円と 34 億円の差に加えて、海上運賃の上昇等で 5 億円程悪化。これらを全て足し込み、9 億円の悪化となった。

p. 11 エラストマー素材事業 要因別 営業利益差異 (YoY)

こちらは、昨年との比較であるが、昨年 1Q はコロナで自動車産業中心に厳しい状況にあった時との比較になるので、あくまでご参考程度にお留め頂ければと思う。

p. 13 高機能材料の P/L

ここから 5 枚のスライドで高機能材料についてご説明する。

高機能材料の P/L については、売上高 252 億円、対前年同期で 28 億円の増加、対前期比はほぼ並み。営業利益は 78 億円。前年同期比 29 億円の増加。対前期比で 21 億円の増加。総じて、高機能材料は堅調に推移している。

p. 14 高機能材料 営業利益差異 (QoQ)

高機能材料事業全体の総括でもご説明申し上げたが、数量差は、電池材料等の出荷増により 4 億円程、価格改定等で 6 億円程良化した。販管費差は光学フィルムを中心に試作関連費用等が未発生であったため 13 億円程良化し、結果 21 億円の良化となった。

p. 15 高機能材料 営業利益差異 (YoY)

出荷増が前年同期比で堅調に推移していることがご覧いただける。

p. 16 電池材料の状況 (出荷量)

ここからスライド 3 枚で、高機能材料事業の主要 SBU 電池材料、光学樹脂、光学フィルムの出荷量についてご報告する。

電池材料については、対前年同期・対前期ともに堅調に推移している。

p. 17 光学樹脂の状況 (出荷量)

光学樹脂は、対前年同期ほぼ並みで推移している。前期比では、主力の水島工場が定期検査等により出荷量を一部調整させていただいているが故の未達となった。

p. 18 光学フィルムの状況 (出荷量)

大型、中小型向けともに堅調。

p. 20 B/S 概要

ここから3枚は、財務諸表と21年度上期の業績予想についてのご報告である。
総資産4,621億円（133億円増）

p. 21 C/F 概要

1Qのキャッシュフローの状況は、営業キャッシュフローは73億円、投資キャッシュフロー▲60億円、フリーキャッシュフロー12億円である。

p. 22 2021年度上期業績予想修正

2021年度上期業績予想について、今年4月28日の21年度上期売上高予想1,550億円を1,780億円に本日修正させていただきたく、営業利益予想については160億円の予想に対して250億円に修正させていただきたい。今までご説明申し上げた通り、エラストマー、高機能材料ともに堅調に推移していること、為替を円安方向に見直したことが修正の背景である。なお、下期業績予想については現在精査中につき、本日時点では、当初業績予想を据え置かせていただきたい。

p. 23 参考：2021年度上期・通期業績予想修正

p. 24 参考：資本的支出、減価償却費

参考資料については、お時間がおありの際にご高覧いただきたい。

以上